



拝島

学 校 長 相 部 公 太 郎
昭 島 市 立 拝 島 中 学 校
令 和 6 年 4 月 1 0 日

優しさと勇氣 【入学式辞挨拶】

第12回日本語大賞において最優秀賞を受賞した当時7歳の小学生、佐藤亘紀くんの作品「お父さんからもらった優しいところです」からです。

「お父さんは、ちよつと遠いところで仕事をするようになったから、お母さんと元気に過ごしてね」父親は2歳の亘紀くんに話しかけました。まだ幼かった亘紀くんは直接言われたことは、覚えていませんでした。しかし、母親のスマホに動画が残っていて、後でその動画を観た亘紀くんは「お父さんは、ちよつと遠いところで仕事をするようになったから、お母さんと元気に過ごしてね」という言葉が心に響きました。白血病だとわかった父親が、入院当日に亘紀くんに残したその言葉でした。そして、1週間後に、父親は帰らぬ人となりました。

亘紀くんは、お父さんに伝えたい事がありました。「お父さん、うそがばれてるよ！だって周りに病院の道具がいつぱいあるし、お父さんが横になっているし、目から涙がちよつとだけ出ているし、声が寂しそうだから。」しかし、亘紀くんは、だまされているふりをして続けようと思っています。「お父さんが優しいところをついてくれたおかげで、僕の心は強くなれています。これからも、お父さんの言葉を守って、お母さんと元気に過ごしたいです。お父さん、優しいうそをありがとう。」と、結びます。

このお話から皆さんに中学校生活で挑戦してほしいことを2つお伝えします。一つ目は、亘紀くんのお父親のように、「人のことを考えられる優しさ」をもってください。中学校では、たくさんの人と出会います。221名の1年生の仲間、435名の上級生、89名の教職員、来年再来年は下級生も入学してきます。たくさんの人と出会い、かかわる中で、「人のことを考えられる優しさ」をもつことに挑戦してください。

二つ目は、亘紀くんのように、何かを支えに、「悲しみや辛さに立ち向かう勇氣」をもてるよう挑戦してください。中学校生活では、楽しいこと・わくわくすることがたくさんあります。しかし、悲しみや辛さを感じることもあるでしょう。そのような時は、悲しみや辛さの中にこそ、成長や生きる喜びへのヒントが隠されています。ですので、諦めずに挑戦してください。そして、これまでになかった新しい自分を発見しながら、中学校生活を進んでいってください。

保護者・地域の皆様

青空に若葉輝く季節となりました。保護者・地域の皆様には、益々ご清栄のこととお慶び申し上げますとともに、本年度も本校の教育活動にご理解とご支援をいただきますようお願い申し上げます。

教職員一同、656名の子どものための健やかな成長に向けて、「チーム拝島」で誠心誠意努めてまいります。よろしくお願いいたします。